小川和紙（国重要無形文化財、ユネスコ無形文化遺産）伝統手漉き技術の学習と普及に関する地域連携事業

下田　敦子　准教授
（人間生活文化研究所）

■埼玉県比企郡小川町に1300年前より伝承されてきた手漉き和紙（細川紙、国の重要無形文化財、ユネスコ無形文化遺産）は日本伝統の手仕事文化として、紙質の優秀さと美しさ、耐久性に高い評価があります。■小川町は「紙漉きのまち」として広報や後継者の育成に力を入れていますが、伝統技術の伝承者は減少傾向を辿っています。これに対して私たち博物館学芸員教育の側からすると、伝統和紙の知識と技術はその知識や技術を持つ人が少なくなるだけに、ますます必要になってきています。



図 1. 活動場所（埼玉県比企郡小川町）は大妻女子大学千代田校より北西約 70km に位置する.

■わが国の博物館収蔵品に占める伝統和紙を素材とした文化財の割合は古文書や美術品などを始めとして極めて高く、学芸員には和紙の製作から保存、修復、管理に関する知識とスキルが必須になっています。しかし実際に殆どの学芸員はその育成過程において、体系的な知識や技術についての素養を養う機会をもたずに資格を取得しています。そこでこの地域連携プロジェクトでは小川町との連携事業として、学芸員養成コースの参加者を対象に、手漉き和紙の原材料の栽培、収穫から加工、製紙、そして保管に至る体系的な学習、実習を企画しました。まず今年度は手漉き和紙・伝統工芸士の方々の協力を得て事業をスタートさせました。実施に当たっては小川町にぎわい創出課、小川町和紙体験学習センターからはこの連携事業を強力にバックアップして頂きました。私たちは今年度よりこのプロジェクトを大学の博物館学芸員教育の質的充実に繋げていきたいと思います。■大学と同町が近接した地理的関係にある（**図1**）ことを活かした連携事業として、また人間生活文化研究所の人的なネットワークも活用して、伝統技術と文化を守る永続的な地域連携事業へと育てて行きたいと思います。■活動場所（埼玉県比企郡小川町）旧埼玉県立製紙工業試験場 小川町和紙体験学習センター、和紙原料（楮）畑地（小川町腰越）、人間生活文化研究所セミナールーム・ワークショップルーム　■ご協力頂いた方々（製紙技術教授）埼玉県伝統工芸士久保晴夫先生・若林正良先生・浅岡優索先生、小川町和紙体験学習センターの職員の方々、小川町にぎわい創出課和紙普及宣伝担当主席主査吉田義和様、久保晴夫先生御弟子の方々には多大なるご指導、ご協力を賜りました。ここに厚く感謝申し上げます。■ご協賛頂いた協業様（東京都中央区日本橋）株式会社小津商店様　ここに厚く感謝申し上げます。■大妻女子大学人間生活文化研究所田中直子所長、津守久美子さん、強崎章子さん、井上友美さん　博物館青木俊郎学芸員　髙塚明恵学芸員　家政学部・文学部・社会情報学部・比較文化学部・人間関係学部学生17名の学生のみなさん、本プロジェクト立上げにあたり大変有難うございました。（学習と普及活動に技術指導員として協力してくれた学生諸姉には感謝状を贈りました）



図 2. 小川町の細川紙製紙技術は国の重要無形文化財、ユネスコ無形文化遺産.

表1. 学習活動、普及活動、地域連携活動についての自己評価（3段階評価　3＞2＞1）

	実施内容	**小川和紙について学習する機会となった**	**小川町の和紙文化普及に貢献できた**	**小川町の方々と連携して行うことができた**	千代田キャンパス地域の方々との交流につながった	**対象とした技術要素 ※別表参照**
8月初旬から10月末	（準備開始は8月初旬） 大妻祭（10/26）における『手帖づくりワークショップ』（終了後は次回準備）	3	3	1	3（参加者数は153人）	17～23（手帖づくり）
12/4	畑地における 和紙原料（楮）の刈り取り作業	3	1	2	ー	2（楮の刈り取り）
（同上）	旧埼玉県立製紙工業試験場における 楮の断裁作業（楮きり）	3	1	2	ー	3（楮きり）
12/11	（同地）における楮かしき／楮むき作業	3	1	2	ー	4（楮かしき） 5（楮むき）
12/14	（同地）における 楮外皮の除去作業（楮ひき）	3	1	2	ー	6（楮ひき）
1/11	（同地）における楮かしき／楮むき作業	3	1	2	ー	4（楮かしき） 5（楮むき）
1/21	久保製紙四代目久保晴夫先生技術指導による小川町伝統色の紙漉き定例伝承会における技術修練と交流。	3	1	3	ー	12～14（紙漉、紙志ぼり、紙干）
3/11	（同上）	3	1	3	ー	
1月中旬から3月末	（準備開始は1月中旬） 大妻さくら祭り（3/15）における 『手帖づくりワークショップ』の開催 （終業後は次回準備）	3	3	1	3（参加者数は177人）	17～23（手帖づくり）

↑
※（別表）技術要素
1・7～11・15・16は
未着手であり今後の対象

（参考）別表. 楮を原料とした製紙～手帖づくりの技術要素

労働時季	技術要素	ID	内容　　『製紙之図解（明治42年、宮崎玄育）』を参考に下田作表
夏	楮の栽培	1	剪定（芽かき）、雑草・害虫除去、 暴風雨自然災害対策など。楮は桑科の植物。
（製紙）秋～冬	楮の刈り取り	2	楮株の防カビ、畑地の整備を含む
	楮（かず）きり	3	収穫した楮（2）を3尺（約90cm）ほどに切り揃える。 ※「楮」は小川町では「かず」と呼ぶ。
	楮かしき	4	（蒸す）楮（3）を、根元を下にして蒸し釜に立て、3時間ほど蒸す。
	楮むき	5	（表皮を剥き取る）蒸し上がった楮（4）の表皮を剥ぎ取る（冷めないうちに行う）。剥いだ表皮を天日に干して乾燥させる。
	楮ひき	6	（白皮加工）5の黒い外皮を刃物で削り取って白皮にする。このとき、芽の跡（キズ）などの不純物も取り除く。※表皮が乾いている場合は水で戻してから行う。
	楮煮	7	（煮熟）6の楮（白皮）を、ソーダ灰（炭酸ナトリウム※）を入れて煮て、繊維を解す。※炭酸ナトリウムには、白皮を柔らかくして不純物を取り除く効果がある。
	楮さらし	8	（あく抜きと日光漂白）7を水に漬けて楮の繊維のあくを抜き、日光漂白する。
	ちり取り	9	8と同時にさらに、楮の繊維の不純物を取り除く。これは、水に漬けた状態のまま、篠竹で楮の繊維をすくい上げながら行う。
	楮打	10	（打解）楮の繊維（9）をさらに解す。これは、楮打ち棒で入念に叩いて行う。
	黄蜀葵叩き	11	（ネリづくり）漉水に入れるネリを準備する。 ネリは黄蜀葵（トロロアオイ）という植物の根を叩いて抽出する。 ※ネリは、楮の繊維を水のなかで分散、浮遊させる働きをする。
	紙漉	12	漉舟に紙料（楮の繊維）と水とネリを入れて、かき回す（繊維を均等に分散させる）。（流し漉き）桁に挟んだ簾で漉水を軽くすくい上げ、すばやく向こう側に流し捨て（化粧水）。次に多めに漉水をすくい上げ、前後左右にゆする。水が簾から落ちるにつれて繊維が絡み合い紙の層ができる。紙の厚さ分を繰り返し、最後すばやく向こう側に簾の漉水を払い捨てる（捨て水）。
	紙志ぼり	13	（圧搾）紙床（しとこ）の水分をゆっくり静かに取る。
	紙干	14	圧搾した紙（湿紙）を剥がして干し板（または鉄板）に張り付けて乾燥させる。
	紙揃	15	（検品）キズのある紙を除く。
	紙裁	16	（裁断）寸法どおりに裁断する（和紙の完成）。
※時季問わず（手帖づくり）	和紙の裁断	17	手帖寸法に合わせて和紙を裁断する（本紙、表表紙、裏表紙）
	折り	18	裁断した本紙（17）を折る。
	穿孔	19	本紙、表表紙、裏表紙に孔をあける。
	紙縒りづくり	20	綴じ紐とする紙縒りをつくる。
	表紙づくり	21	正麩糊、刷毛を使い表表紙、裏表紙に裏打ちする。
	角裂づくり	22	手帖の背表紙の天地を補強するための角裂（絹布に和紙で裏打ちして）をつくる。
	和紙を綴じる	23	和綴じ（四ツ目綴じなど）して本紙に表表紙、裏表紙をつけて綴じる（手帖の完成）。